

令和6年度 風力発電講演会 プログラム

主催 一般財団法人新エネルギー財団 新エネルギー産業会議 風力委員会

日時 令和7年2月18日(火) 13:30~17:15

開催方法 Zoom ウェビナーによるオンライン配信

定員 最大500名

13:30 開会

主催者挨拶 一般財団法人新エネルギー財団会長 寺坂 信昭

13:40-14:25 45分

第Ⅰ部「洋上風力政策の現状と今後について」

古川 雄一 氏(経済産業省資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部新エネルギー課風力政策室長)

要旨:洋上風力発電政策について、再エネ海域利用法に基づく着床式洋上風力発電を中心とした案件形成の状況と、今後加速的に導入をはかっている浮体式洋上風力発電の政策現状等について、サプライチェーン形成や人材育成といった産業政策の観点からも説明を行う。

14:35-15:20 45分

第Ⅱ部 「排他的経済水域(EEZ)とはどのような海域か」

西本 健太郎 氏(東北大学大学院法学研究科教授、国立極地研究所北極観測センター教授)

要旨:洋上風力発電の実施を念頭に、排他的経済水域(EEZ)とはどのような海域で、どのような国際法のルールが適用されるかを解説する。

15:30-16:15 45分

第Ⅲ部 「国産風車の開発の足跡と学び」

Ⅲ-1 「風車開発に於ける研究の重要性とネットワークの活用」

永尾 徹 氏(足利大学 総合研究センター特任教授、風力エネルギー学会会長、元富士重工)

要旨:現在日本では大型風車の開発と製造は行われていない。その中で、風車開発、製造の経験のない会社が、10年の準備の後、国内で一番売れた風車を開發生産できたか、についてそのキーファクターを振り返り、日本の大型風力発電の開発再開についてのヒントを提供したい。

16:25-17:10 45分

Ⅲ-2 「風のエネルギーを最大限活用するシステムを考えてみませんか」

本田 明弘 氏(青森公立大学特別教授/弘前大学学長特別補佐、風力エネルギー学会副会長、元三菱重工)

要旨:古くは帆船での風エネルギーの利用から電力への変換が主流になり、商業用の風力発電機が製造され発電コストの低減を追求して急激に大型化が進む中で、現在日本では大型風車の開発と製造は行われていない。一方で急激な大型化や洋上風力への展開の課題も認識され、再生可能エネルギーの価値に立ち返り日本の強みを再認識するための技術継承・産業開発再開について考えたい。

17:10-17:15

閉会の挨拶

17:15 閉会 終了

司会 飯田 誠 氏(東京大学先端科学技術研究センターエネルギー国際安全保障機構特任准教授、新エネルギー産業会議風力委員会委員長)